

木元 孝英 さん

【中小企業診断士 二次筆記試験学習の記録】

【はじめに】

木元孝英と申します。現在、37歳の男性会社員です。家族は、妻と娘と老犬。職歴は、転職を挟みながら営業を11年、現在は、在庫管理や売上予算の作成など管理業務を務めて4年程経ちます。中小企業診断士の試験に有利になる知識や資格は保有していませんでした。

以下の（二次筆記試験）学習体験記では、あたかもモチベーション高く、常にキチンと学習をし続けられていたかのように書いてしまっていますが、実際のところ、学習意欲には大きな波がありました。学習の仕方、時間の確保の仕方でも試行錯誤の連続でした。ブレにブレた学習生活だったとも言えますが、自分なりの学習の心得とMMCの解答技術の習得を軸に据えて学習を続け、合格を獲得できたと思っています。この文章をお読みになる方が、それぞれのペースで学習を続け合格を獲得できることを祈念いたします。

【学習期間】

一年目は、一次試験終了時まで、ネットの情報と市販の参考書を購入する程度の準備しかしていませんでした。一次試験後も独学で暗中模索のまま勉強を続けましたが、疲れが溜まっていたのか、本試験直前にやる気がしぼみ不合格。学習を再開する気持ちを取り戻すことが出来ず、二年目は、1月中旬ごろにMMCの通信講座を申し込むことで、はじまりました。

平成27年9月頃から、学習開始。

平成28年度 一次試験：独学（合格）、二次試験：独学（不合格）

平成29年度 一次試験：学習せず試験も受験せず、

二次試験：MMC通信+MMC直前答練（通学）+直前スーパーリング

（模試は、MMCを4回会場受験、大手予備校の模試を2回受験）

【二次筆記試験の困難さとMMCの解答技術】

二次試験の学習に困難を感じる理由として、①正答が明らかでない、②解き方がわからない、③解答時間が足りないといったことが挙げられます。これらを解消するために、MMCの講座受講は有効であったと思います。

まず、MMCの過去問題の模範解答や答練の解答は、非常に読みやすく構成されており、納得感も高かったため、正答が明らかでない試験に対して、どの程度の解答が書ければよいのか目途を付けることが出来ました。また、MCサークルや解答に使うキーワード集などのツールが明示されていて、解答作成に至るプロセスが標準化されているため、解答技術が習得しやすく、時間内に解答を作成するための強化・修正ポイントを認識しやすいと思います。

【学習の心得】

一年目の失敗から、最も大切なのは、本試験まで学習のモチベーションと集中力を維持することだと考え、下記の点を意識して過ごしました。**生活面**では、①睡眠時間をしっかり確保すること、②家族との時間を確保し、学習の理解を得ること。**意識の面**では、①自分で自分を誤魔化さず、出来ることと出来ないことを峻別し、出来もしないことを出来るかと勘違いしないこと。②日々の学習の結果が、すぐに出るとは思わないこと。学習を続けていれば、今できないことも、いずれ出来るようになる。覚えきれていないことも、いつか覚えられるようになること。こうした学習の心得を忘れないでいるよう心がけました。

【学習時間の確保】

受験生はどなたも学習時間の検出に苦労されていると思います。私も、①妻が他の難関国家資格試験の学習中であること、②娘がまだ幼くその世話に時間を取られること、などの要因で学習時間を思うように確保できませんでした。そうした中、合格者の体験記などを読んで焦り、睡眠時間を削ってでも勉強時間を確保しなくてはとか、早朝起床して勉強時間を確保しなくては、といった思いに囚われたこともあり、4時に起きて勉強していた時期もありましたが、体調を崩して辞めました。

結局、学習を続けるなかで、睡眠が必要な体質や家族との関係などの制約条件は、「そういうもの」と受け入れて、短くても精度の高い学習を細々とでも続けることを選択しました。具体的には、平日の一日の勉強時間で事例を解いて復習までを終えることはできませんので、「事例を解く日」、「解答を分析する日」、「模範解答を分析して覚え込む日」など、分けていました。学習時間の確保だけでなく、自分に合わないやり方は、固執せずにスッパリ諦めて、自分にあった別のやり方を探すことを重視していました。

・ **平日**：通勤時間：30分（キーワードの確認）

会社の昼休み：30分（事例Ⅳの計算問題）

夜：1時間程度

・ **休日**：5時間程度（日中に2,3時間、夜1時間から1.5時間）

【時期別の学習内容】

時期に応じて学習の内容を変えました。初期は、知識（キーワード）の習得。以降は、MMCの事例問題を解いて**解答技術**を体に覚え込ませることに注力しました。なお、過去問は、直前期に解答技術の運用の練習台として使う程度でした。過去問には、合否への影響が小さい、その年だけの難問が含まれています。難問に拘り過ぎてしまうことを避けるため、過去問分析はMMCに外注したと考えて、分析のアウトプットとしての事例問題に注力する方が効率的だと思います。

[学習の初期段階から本試験直前まで]

2年目の学習中、続けていたことです。

- ① キーワードリストを編集し、毎日目を通すこと（使える道具を増やすため）
- ② 事例Ⅳ計算問題対策（MMCの問題集や過去問）（計算過程をないがしろにせず、丁寧に解くことを重視しました）
- ③ 与件文と設問文、模範解答、合格者の再現答案の丸写し（事例を体で覚えるため）
- ④ 日本政策金融公庫の「調査月報」など、中小企業の経営革新の事例記事の精読（情報共有や権限委譲など、解答で使う施策が実際に有効であることが確認できます）

[初期：1月から2月]

基礎知識や周辺知識を獲得することに留意しました。完全に覚え込むことは出来ませんでした。後々、知識不足に悩まされて焦りを覚えることはありませんでした。

具体的には、① MMCテキストの読み込み（基礎知識の確認）、② MCサークルを覚え込み、白紙の紙に書き出す練習（基礎知識のアウトプットの練習）、③ 各事例に関連する書籍の読み込み（各事例の領域の全体感を養うため）を行いました。

[中期：3月から8月中旬]

解き方が固まらず、学習のペースもつかみきれない状態から、**解答技術**を習得していく段階。この時期が一番辛かったです。他の教材には手を広げずMMCの事例問題を毎日通りに解くことと、その復習に注力しました。通信講座を受講していましたが、模試は全て会場で受験し、自分の実力と学習の進捗を確認していました。

[後期：8月下旬から9月中旬]

直前対策を受講しました。同じテーマの事例を1日3つ解くことで、解答作成の過程がチューニングされていくような感触が得られました。本試験に向けての課題も明確になり「合格できるかもしれない」という感覚が得られました。直前答練の予習と復習に集中しました。

[直前期：9月下旬以降]

最後の調整の時期。① 過去問（5年分）やMMCの事例・模試問題を使ってミスを起こさず、出来ることを必ず出来るようにする練習、② 直前スパーリングを受講し、本試験同様1日で4事例を解くペースをつかみました。

【さいごに】

MMCの先生方には、解答の添削、ご講義、模試の個別返却など、大変お世話になりました。今後も研鑽を積んでまいりたいと思います。大変、お世話になり、ありがとうございました。